

目黒哲也 通信

市政について皆様の声を
ぜひお聞かせください!

●発行人 目黒哲也

所属委員会 社会厚生委員会 副委員長 議会広報編集特別委員会
南魚沼地域広域計画協議会 南魚沼市都市計画審議会

●連絡先 目黒哲也後援会事務所

〒949-6612 新潟県南魚沼市東泉田1076-1 TEL 025-773-6253
携帯 090-4011-7563 E-mail kinseikan.tetsuya430623@gmail.com

目黒哲也
公式ホームページ
こちらから→



目黒哲也通信のバックナンバーを希望される方は、メールあるいは電話にてお気軽にご連絡ください

ごあいさつ

皆様には、日頃から市政へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
ブルーインパルスの飛行で開幕した東京パラリンピックが、世界中に勇気と感動を与えて閉幕しました。人間の強さや無限の可能性を示した選手たちの雄姿は言葉では言い表せない努力の結晶だったに違いないと思います。ブルーインパルスの合言葉は「創造への挑戦」であります。

長く続くコロナ禍だからこそ、ブルーインパルスの飛行機雲のように未来への光路を示していくかなくてはならないと決意しております。

私の政治信条は、「天時不如地利。地利不如人和」～天の時は地の利に如かず。地の利は人の和に如かず～
「天」は、先見性と洞察力。虫の目・鳥の目・魚の目の視点で物事を捉え、時代の先を読み、深謀遠慮を巡らす。
「地」は、持続性と創造力。変化に対応し、地域の有形無形の資産を活かし、持続可能な明るい豊かなまちを創る。
「人」は、多様性と人間力。ひとり一人を尊重し、仁義礼智信を重んじ、優れた人間力を磨く。
この天地人を胸に「創造への挑戦」を続け、南魚沼の未来への架け橋となるべく、南魚沼市議会議員2期目に挑みます。
引き続きご理解とご協力並びにご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

未来への架け橋

～明るく豊かな安心して暮らせる美しいまちへ～

「この南魚沼市に生まれてよかった」全ての市民が心からそう思える
市民の笑顔溢れる、誇りが持てる「美しき南魚沼」を創らねばならない！
私が、未来の南魚沼への架け橋となる！

まちを元気に 活力を生む産業の推進

～「産業振興こそ地域の力！」商工業・観光業・農業の振興と中心市街地の活性化～

まちを豊かに 南魚沼発ホワイトニューデール成長戦略

～再生可能エネルギーでの循環型社会～

まちを明るく 夢と希望がもてる教育・子育て支援の充実

～出産・子育てから教育までの一貫した環境の充実と支援～

まちに愛を 愛が溢れる医療福祉の充実

～子どもから高齢者、障がい者・障がい児まで、全ての市民の命と健康を守る～

まちに安心を 安心安全に暮らせる防災強化

～防災整備・体制の強化と地域コミュニティの強化による防災力の向上～

まちに笑顔を 市民参画で躍動するまち

～市民主体のまちづくりの推進～

プロフィール

生年月日／昭和43年（1968年）6月23日生（53歳）
学歴／六日町高等学校（昭和63年39回卒）
順天堂大学 体育学部健康学科（平成3年卒）
経歴／小千谷法人会 六日町地区会長、六日町商工会 副会長、
雪国青年会議所 第23代理事長、
日本青年会議所 新潟ブロック第41代会長、
六日町小学校 PTA会長（2003年～2006年）、
南魚沼市PTA連絡協議会 初代会長（2005年～2006年）

議員歴

社会厚生委員会副委員長（2019年～2021年）
総務文教委員会副委員長（2017年～2019年）
議会広報編集特別委員会（2017年～2021年）
南魚沼地域広域計画協議会（2019年～2021年）
南魚沼市都市計画審議会（2017年～2021年）
社会教育委員・公民館運営審議会（2017年～2019年）

9月議会において下記の一般質問を行い、皆様のお声を市政にお届けいたしました。
質問と答弁は以下の通りです。（一部抜粋）

南魚沼市議会 録画配信 | 検索

一般質問 地域プロジェクトマネージャー制度を活用せよ

市長答弁 地域活性化の手段において魅力的な制度である

目黒 自転車を活用したまちづくり「RIDE ON 南魚沼」、「健康ポイント」、「松井基金プロジェクト」、「DMO南魚沼観光協会」とそれぞれのプロジェクトを単独で行うではなく、融合させることで大きな成果が得られると考える。そのため地域プロジェクトマネージャー制度を活用し人材を公募したらどうか。

市長 現在、市では、この他でも様々な地域づくりのプロジェクトが進行している。それらを有機的につなげ、相乗効果を上げて取り組むことは、地域活性化において非常に重要なテーマとして考えている。それを実現する手段として地域プロジェクトマネージャーは魅力的な制度である。



9月議会報告

◆会期 8月30日～9月17日の19日間

令和2年度一般会計歳入決算額 423億8,871万円
歳出決算額 407億7,769万円

歳入決算額のうち、

■令和2年度新型コロナウイルス対応に対する国からの交付金・補助金総額 74億4,266万円
(うち特別定額給付金補助金 55億9,976万6千円)

■令和2年度新型コロナ感染症市独自支援策
28事業 総額16億4,978万2千円

第8弾 南魚沼市経済支援決定！

- ①飲食店利用促進事業補助金「寄ってらっしゃいキャンペーン」 予算 1,900万円
- ②南魚沼市ふるさと応援プレミアム付き旅行券補助金「雪恋」 予算 1億3,000万円

が、南魚沼市の将来像がかかっている重要なプロジェクトである。

自黒 市長が描く自転車を活用したまちづくりとは。

市長 RIDE ON 南魚沼は、単に自転車を推進するだけではなく、観光、健康増進、道づくり、SDGsと将来にわたり、幅広い展開を描いている。

自黒 松井基金プロジェクトの構想とまちづくり推進機構の活用は。

市長 細かなプロジェクトの内容はまだ決まっていない。松井氏との話では、起業家を育成する拠点やリゾートオフィス田園都市構想、そして雪資源の活用化が共有されている。このプロジェクトを進めるに当たり、事務的機能は、まちづくり推進機構が力を発揮してくれると考えている。

自黒 DMO南魚沼観光協会の進捗は。

市長 JTBが南魚沼市に支店をつくる計画がある。我々と一緒に取り組んでくれる拠点となることを期待している。

この度、新潟県観光協会会長に花角知事が就任された。また姉妹都市であるオーストリアのチロルは州知事が観光協



会長にもなっている。南魚沼市においても将来的には観光協会への行政の関与の仕方を考える時期がきている。

自黒 それぞれ進めているプロジェクトはボリュームが大きいので、職員だけではなく、地域おこし協力隊を活用し、展開していくのはどうか。またYOU KEYプロジェクトや八海高校総合探求授業、小・中学校のGIGAスクールやクラブ活動・部活動の指導者にも地域おこし協力隊を活用したらどうか。

市長 我が市では現在、地域おこし協力隊はいないが、以前と様々変わってきてていると思うので、制度をよく確認し、採用するかどうか検討する。

自黒 それぞれ進めているプロジェクトは、将来的に重要な構想であり、担当部署も単体ではなく、生涯スポーツ課、保健課、商工観光課、交通環境課、建設課、企画課、そして観光協会、まちづくり推進機構と横断的な組織で展開していく必要がある。その橋渡し役をするプリッジ人材が重要となるので、地域プロジェクトマネージャー制度を活用すべきと思うが。

市長 それぞれ個々のプロジェクトのボリュームが大きいので、総合的に任せることなく、一つのプロジェクトに

絞って、それに特化した人材を視野に入れて制度を活用する方が望ましいのではと考えている。

この制度を活用しなくとも、市にとって必要な人材であれば、市の独自財源で確保すべきものであると考えている。



めぐろの山

高度経済成長に伴って都市圏へと人口が流出すると共に、少子高齢化の進行により人口の自然減が生じている地方圏は、国全体よりもかなり早い時点で人口減少・高齢化時代に突入しております。

そこで総務省は、地域おこし協力隊や地域活性化企業人（旧地域おこし企業人）など都市部人材の地方回帰を支援する施策を通じて、地方自治体の取り組みを支援しているところであります。

新たに今年度より「地域プロジェクトマネージャー」制度が創設されました。都市部のマンパワーを地方へつなぐ仕組みの一つとして導入された地域おこし協力隊とは別に、地域、行政、民間、外部の関係者をつなぎ、調整し、橋渡しをしながら、実質的にプロジェクトをマネジメントできる「プリッジ人材」を自治体が雇用する場合に、国が財政支援をするという制度であります。雇用できるのは、1市町村あたり1名であり、雇用期間は1年以上3年以下、雇用に要する経費を対象に650万円を上限に特別交付税措置となります。

市では、現在、自転車を活用したまちづくり「RIDE ON 南魚沼」のプロジェクトが進められております。加えて健康ポイント制度を開始し、市民が運動を習慣化し、継続的な健康づくりに取り組んでいくように後押しをしています。また南魚沼市観光協会は、「観光地域づくり法人」の登録を目指しているところであります。

更に松井基金プロジェクトも展開しており、これら全て

キーワード⑭

地域プロジェクトマネージャー・地域おこし協力隊の活用

のプロジェクトを融合させることで、着実に成果をあげられると考えます。そのためには、専門的な知識や経験を持ち、プロジェクトに関わる多様な考え方や発想を理解して、それらの間を適切に調整し、及び橋渡ししながら、関係者をチームとしてまとめ、現場の責任者としてプロジェクトを推進できる人材を配置することが極めて重要であると考えます。

市が進めているプロジェクトは、企画課、U&Iときめき課、生涯スポーツ課、保健課、交通環境課、建設課等と担当が横断的であり、加えて南魚沼市観光協会、まちづくり推進機構とも連携が必要となってきます。それぞれを橋渡しするプリッジ人材として地域プロジェクトマネージャーを採用すべきであると考えます。

また総務省は、都市部から過疎地などに移り住んで地域振興に取り組む「地域おこし協力隊」制度の関連経費について、来年度予算概算要求に今年度予算の3倍に当たる4億5,000万円程度を計上する方向で調整に入っております。これは、新型コロナウイルスの感染急拡大を契機に地方への関心が高まっていることから、制度の周知や受け入れ自治体向けに支援を強化し、地方への人の流れを後押しするものであります。

地域おこし協力隊員の活動に要する経費として、隊員1人あたり470万円を上限として、特別交付税措置がされます。今年度から地域おこし協力隊インターンが創設されたので、活用し易くなっています。また地域おこし協力隊として活動することによって、南魚沼に魅力を感じ、移住定住にもつながってくるはずと考えます。

地域おこし協力隊を、それぞれのプロジェクトのメンバーとして、YOUKEYプロジェクトや総合探求授業講師として、また小中学校のGIGAスクール講師やクラブ活動・部活動の指導者として登用すべきであると考えます。

なぜ、いま地域プロデュースが求められているか。

昔から、「まちおこし」や「まちづくり」など呼び名を変えて地域づくりが行われてきました。国においても、平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」が公布され、地域が抱える課題は日本全体の課題として広く認識され、さまざまな対策がなされてきました。しかし、従来型の地方創生では、結果に結びつきにくいことも多く、これまでの手法だけでは限界があると考えます。

地域が目指す大きな目標としてのコンセプト、実際に継続・定着させる仕組み、地域社会における新しい機能を作り上げができる人材や人の力が必要であります。かつてから、キーパーソンと呼ばれるリーダーによって、まちづくりの理念を共有する住民が主体となって地域活性化が実践されてきました。

キーパーソンとなり得るのが、地域プロジェクトマネージャーであると思います。地域全体を面と捉えながら事業を通して地域の未来を作り上げる地域プロデューサーのその手法や世界観を通して、職員や市民が自ら実践していく人材の育成にもつながってくるはずと考えます。



ボランティアに参加しました！



9月20日に開催された全日本ロードレース会場である三国川ダム12kmコースの草刈りボランティアに参加。

福祉ボランティアチーム「よりそうSmile」主催の「車いすで行こう！Let's 街歩き」に参加し、初めて車いすに乗って六日町駅通りから六日町大橋まで移動してみました。普段歩いていても気にならない多少な段差や勾配、小さな溝が車いすでは大きな障害になっていること、国道の信号時間は車いすで渡るには短く、命がけで渡らねばならないことを痛感しました。トイレも車いすで入るには狭過ぎ、ランチを食べるためにお店に入りましたが、やはり車いすで入るには入口の広さや段差等で困難でした。車いすの方々がこれまでの間、どれだけ諦めたり、我慢してきたことがあっただろうかと思いを巡らせ胸が痛くなりました。とても考えさせられた貴重な体験でした。

